

Rethinking Higher Education Spaces



Lessons Learned



21 世紀の大学の教室を設計するにあたって：

授業を行う教授へのユーザー調査

オフィスを設計するのと同様、実際に教室で授業を行う教授からのインプットは不可欠になります。ユーザーの声に基づいてスペースを設計することがまず重要になります。

マルチに使用できる柔軟性が鍵

ひとつのことにしか使えないツールは非効率的です。これからの理想的な教室はマルチに使用でき、柔軟性があることが必要です。固定されたテーブルやアーム、キャスターのない椅子など、学生の移動が制限されているものは避けましょう。さまざまなクラスにマルチに使用できるスペース、そして個人モードからグループモードへ瞬時に移行できるスペースを創出することが望ましい。

「見る、する、教える」が学習を強化

双方向の学習法の重要な点は学んだ事をさらに人に教えることでその学習が強化されるということです。その作業はできれば隣りあわせになることが理想的で、可動式テーブルやチェアは人とのインタラクションやコーチングをより活発にします。

テクノロジーは簡単で使いやすいこと

表示される講義内容など教室で使用されるテクノロジーはすべての人に使いやすく、すぐに接続され、学生、教授の両方がコントロールできることが望ましい。

視覚化すること

書き留めなければ、アイデアは10-15 秒のうちに消えてしまう可能性があります。可動式ホワイトボードは、どんな学習環境でもアイデアを取り込み、評価し、共有するための簡単で効果的なツールです。

「動き」を促進すること

双方向学習で重要なことは人の動きを促進し、コラボレーションを生み出すこと。人は動くことで、関係をよりダイナミックにすると言われています。その際に可動式什器、ポータブルホワイトボードは重要な役割を果たすことになります。

視界を遮らないこと

教室内ではどの席からも講義内容や他の学生がよく見えること。そのためにはマルチスクリーン表示、可動式チェアなどの導入を考慮することが重要です。

列から円い配置へ

現在の教室は列で配列された固定された学生用の席と教壇から成り、学生は立って意見をかわすという心理的なストレスにさらされることになります。円い配置にすることでストレスなしに、より活発に意見が交換しやすい環境を提供することができます。

少ないコストで一歩ずつ

いまやどの企業や大学でも予算の問題を抱えています。すべてを一度にする必要はありません。少ない予算の中で、什器やスペースの配置を変更するだけで学生の交流やコラボレーションは活発化し、効果を発揮します。

教室に浸透するイノベーション

Steelcase Node は、IDEO 社と協同で開発され、可動式の回転椅子により、学生は教室中を自由に移動でき、講義中心の学習からチームでの学習に進み、そしてまた講義中心の学習に戻る、といった多様でダイナミックな学習セッティングをスムーズに行うことができます。そのオープンに広がったデザインは、ユーザーの姿勢や動きを固定せず、快適に学習ができるように配慮されています。



node

